

魅力ある高等教育の振興

新ビジョン体系	4-2 (3)	担当部局	文化・観光部 大学課
---------	---------	------	------------

❖ 施策の背景

- 少子化の一層の進展により、大学進学率は上昇傾向にあるものの、大学進学者が減少していくことが予測されている。
- 高等教育機関は「知と人材の集積拠点」として、その成果や知識・技能を地域課題の解決に活用するなど地域社会に還元することが求められている。
- 地域における質の高い教育機会を確保していくためには、各大学が持つ「強み」や「特色」を最大限有効に活用し、連携を強化することが求められており、本県では、2014年に「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」を設立し、大学連携や地域・産業界との連携による各種事業を展開している。
- 静岡県立大学、静岡文化芸術大学の両県立大学には、地域が求める人材の育成や研究成果の還元による地域への貢献という、県立大学としての使命を果たしていくことが求められている。

❖ 現状と課題

- 高等教育機関が、高度な技術や専門的な知識を有する多様な人材を育成し、地域社会の発展に寄与していくためには、教育・研究機能の充実とその成果の地域還元を進めていく必要がある。

❖ 目標

- 地域産業や地方自治体と教育機関、教育機関同士の連携を推進し、高等教育機関における教育・研究機能を充実させ、地域に貢献できる人材を育成する。

❖ 施策・主な取組

魅力ある高等教育の振興

① 静岡県立大学・静岡文化芸術大学の教育・研究機能の充実

静岡県立大学と静岡文化芸術大学が、優秀で多様な人材から選ばれ、地域や国際社会の発展に寄与する知の拠点として、それぞれの強みを活かした質の高い教育・研究活動を展開し、豊かな人間性と社会性、未来を切り拓く力を備えたグローバル化社会で活躍できる人材を育成する。

② 高等教育機関の教育・研究機能の充実とその成果の地域還元

大学間及び大学・地域間の連携を強化して、県内高等教育機関の教育・研究機能の充実を図り、地域の発展に資する人材を育成する。

魅力ある高等教育の振興

新ビジョン体系	4-2 (3)	担当部局	文化・観光部 大学課
---------	---------	------	------------

❖ 目 標

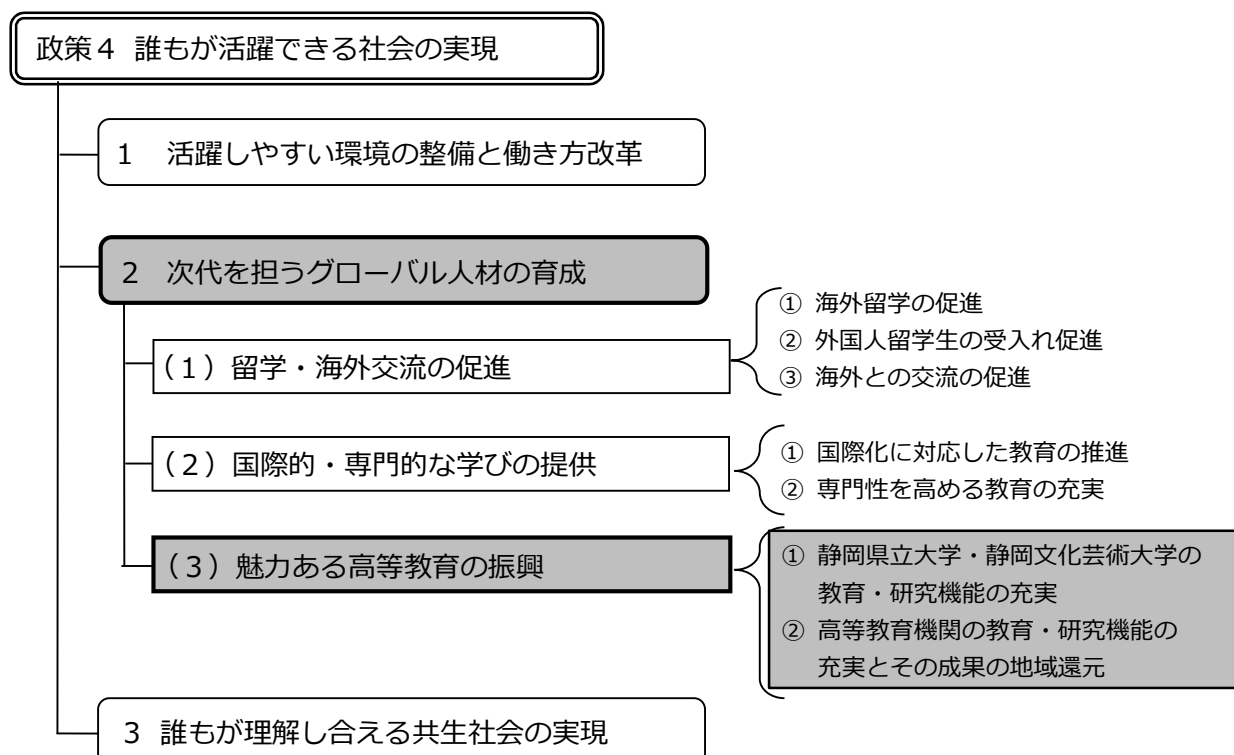
- 地域産業や地方自治体と教育機関、教育機関同士の連携を推進し、高等教育機関における教育・研究機能を充実させ、地域に貢献できる人材を育成します。

❖ 施策に関する指標

成果指標	基準値	2018実績	目標値
県内高等教育機関が行った受託研究・共同研究件数	(2016年度) 850件	910件	1,000件

活動指標	基準値	2018実績	目標値
静岡県立大学・静岡文化芸術大学のオープンキャンパス参加者数	(2017年度) 8,190人	8,491人	9,000人
県内高等教育機関の公開講座・シンポジウム開催回数	(2016年度) 442回	445回	500回

❖ 施策と取組の位置付け



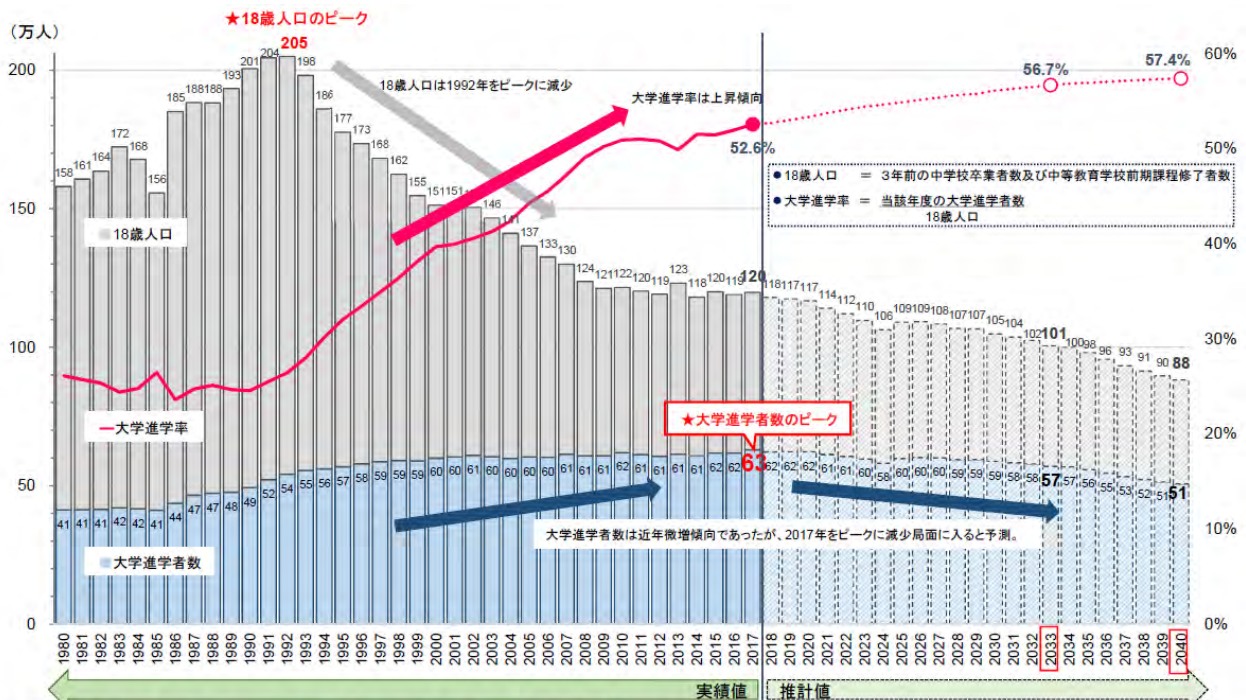
1 施策背景

- 少子化の一層の進展により、大学進学率は上昇傾向にあるものの、大学進学者は減少していくことが予測されている。【図1】
- 人生100年時代やグローバル化の進展など、社会情勢が急速に変化する中、地方大学には、地域の産業や行政を支える基盤として、地域に貢献する人材を育成することが求められている。
- 高等教育機関は「知と人材の集積拠点」として、その研究成果や知識・技能を地域課題の解決に活用するなど地域社会に還元することが求められている。
- 地域における質の高い教育機会を確保していくためには、各大学が持つ「強み」や「特色」を最大限有効に活用し、連携を強化することが求められており、本県では、2014年に「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」を設立し、大学連携や地域・産業界との連携による各種事業を展開している。(P.67)
- 静岡県立大学、静岡文化芸術大学の両県立大学には、地域が求める人材の育成や研究成果の還元による地域への貢献という、県立大学としての使命を果たしていくことが求められている。

1 高等教育機関が置かれている状況

(1) 国における検討状況等

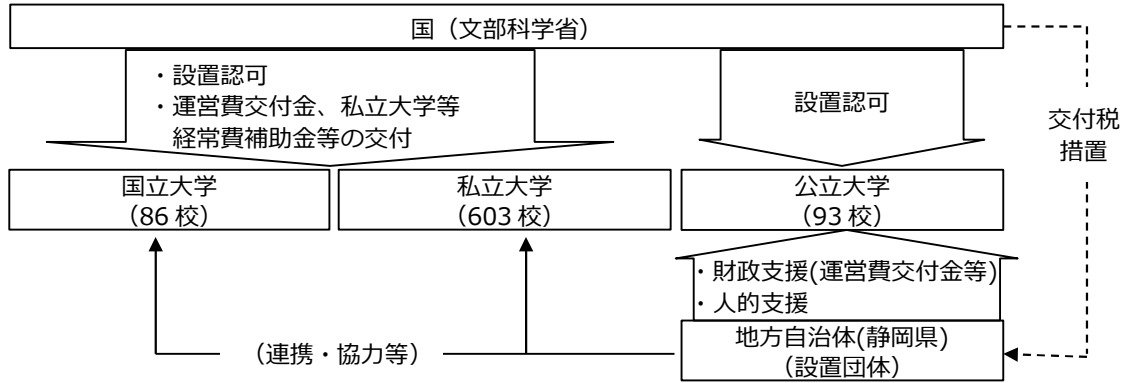
ア 大学進学者数の将来推計【図1】(中央教育審議会資料)



【出典】○18歳人口：①1980年～2017年…文部科学省「学校基本統計」、②2018年～2029年…文部科学省「学校基本統計」を元に推計、③2030～2034年…厚生労働省「人口動態統計」の出生数に生存率を乗じて推計、④2035～2040年については国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)(出生中位・死亡中位)」を元に作成(2034年の都道府県比率で案分)
 ○大学進学者数及び大学進学率：①1980～2017年…文部科学省「学校基本統計」、②2018年～2040年…文部科学省による推計

4-2 次代を担うグローバル人材の育成

イ 高等教育機関に対する国・地方自治体の関与



ウ 地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律（抜粋）（2018年6月1日施行）

(基本理念)

第二条 地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進は、国、地方公共団体及び大学の相互の密接な連携並びに事業者の理解と協力の下に、若者にとって魅力ある修学の環境の整備及び就業の機会の創出を図ることを旨として、行われなければならない。

(2) 県内高等教育機関の状況

ア 県内の高等教育機関数

大学・短期大学:17校、大学院大学:2校、高等専門学校:1校

イ 学部学問系統別一覧【表1】

	文・文化・心理学系	外国語系	法・政治学系	情報学系	経済・経営・商学系	社会学・社会福祉学系	国際関係学系	食物・被服・生活科学系	芸術学系	教育・保育・教員養成系	人間科学・総合科学系	看護・健康・スポーツ・保健学系	医学・薬学系	理学系	工学系	農・水産系	環境科学系	その他
静岡大学	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●		
浜松医科大学												●	●					
総合研究大学院大学生命科学研究科遺伝学専攻				●									●	●				
沼津工業高等専門学校				●										●	●	●	●	
静岡県立大学・同短期大学部	●	●	●	●	●	●	●	●		●		●	●				●	
静岡文化芸術大学	●	●	●		●	●	●		●									
静岡英和学院大学・同短期大学部	●	●	●	●	●	●		●		●	●							
静岡産業大学	●			●	●	●	●			●	●	●						●
静岡福祉大学	●			●		●				●		●						
静岡理工科大学	●			●	●			●		●	●			●	●		●	
順天堂大学保健看護学部												●						
聖隷クリストファー大学						●				●								
東海大学海洋学部	●				●	●	●	●						●	●	●	●	●
東海大学短期大学部								●		●								
東京女子医科大学看護学部												●						
常葉大学	●	●	●	●	●			●	●	●		●					●	
常葉大学短期大学部	●								●	●								
日本大学国際関係学部・同短期大学部					●		●	●										
浜松学院大学・同短期大学部		●			●	●				●								
光産業創成大学院大学																		●

※放送大学を除く

(大学課調べ)

4-2 次代を担うグローバル人材の育成

ウ 県内高等教育機関の収容定員充足状況【表2】 (2019年5月1日現在)

区分	国立	公立	私立	合計
高等教育機関数	4	2	14	20
収容定員(人)	11,463	4,528	22,220	38,211
在学者数(人)	12,473	4,898	21,904	39,275
収容定員充足率(%)	108.8	108.2	98.6	102.8
県内出身者数(人)	5,798	2,868	15,552	24,218
県内出身者比率(%)	46.5	58.6	71.0	61.7

※放送大学を除く

(大学課調べ)

エ 県内公立大学の志願倍率の推移(過去5年)

(単位:人、倍)

年度		2015	2016	2017	2018	2019
県立 大学	募集人数 (A)	590	590	590	590	615
	志願者数 (B)	2,666	2,881	3,309	2,579	3,104
	志願倍率 (B/A)	4.5	4.9	5.6	4.4	5.0
県立 大学 短期 大学 部	募集人数 (A)	140	140	140	140	140
	志願者数 (B)	362	388	388	341	369
	志願倍率 (B/A)	2.6	2.8	2.8	2.4	2.6
文化 芸術 大学	募集人数 (A)	300	300	300	300	320
	志願者数 (B)	1,577	1,949	1,861	1,795	1,847
	志願倍率 (B/A)	5.3	6.5	6.2	6.0	5.8
合計	募集人数 (A)	1,030	1,030	1,030	1,030	1,075
	志願者数 (B)	4,605	5,218	5,558	4,715	5,320
	志願倍率 (B/A)	4.5	5.1	5.4	4.6	4.9

※大学は学部入試のみ(大学院入試は除く)

※全ての選抜方法(一般、推薦、帰国子女、社会人、私費留学生)の総計

2 ふじのくに地域・大学コンソーシアムの概要

(1) 組織概要

沿革	2014年3月 ふじのくに地域・大学コンソーシアム設立 2014年4月 一般社団法人化 2015年4月 公益社団法人化	
構成団体	高等教育機関 (21)	県内全ての高等教育機関
	地方自治体 (22)	静岡県、静岡市、浜松市、沼津市、三島市、富士宮市、島田市、富士市、磐田市、焼津市、掛川市、藤枝市、袋井市、裾野市、伊豆市、伊豆の国市、御殿場市、下田市、菊川市、小山町、川根本町、河津町
	公共的団体 (2)	静岡県教育委員会、静岡県行政書士会
	準会員 (2)	公益財団法人静岡県舞台芸術センター、静岡トヨタ自動車株式会社
	賛助会員 (6)	公益社団法人静岡県国際経済振興会、公益財団法人静岡県国際交流協会、岸本工業株式会社、株式会社オレンジハウス、株式会社 SBS コミュニケーションズ、株式会社レオパレス 21
協力団体等 (約 100)	静岡県市長会等 日本人大学生の海外留学を支援する企業等	

(2) 事業概要

事業区分	内容
教育連携	大学間相互の連携と交流を促進し、教育内容の充実を図るとともに、静岡の地域資源をテーマとする多様な学習機会を提供する。 ＜単位互換授業＞、＜高校等出張講座＞
共同研究	大学の研究力の向上と地域貢献の推進を図るため、本県の地域資源や課題解決に取り組む研究に対して助成する。 ＜共同研究助成＞
地域貢献	複数大学が共同で、静岡県の魅力発信・地域振興をテーマに、大学が持つ知識等を県民に還元する。 ＜大学連携講座＞、＜学生による地域活動支援＞
国際交流	県内大学での留学生数の増加と、学生の海外留学の促進を図るため、留学生の受入・交流支援や海外留学支援を行う。 ＜留学生交流＞、＜グローバル人材育成＞
学生支援	学生・留学生の県内企業への就労を支援するため、企業交流会やインターンシップを開催する。 ＜留学生就職支援＞、＜インターンシップ推進＞
機関交流	大学職員の資質向上のため、複数大学が合同で職員研修を行う。 ＜合同 FD・SD 研修会＞
情報発信	共同研究や地域貢献等の成果を広報するため、フォーラムやインターネットを通じた情報発信を行う。 ＜ふじのくに地域・大学フォーラムの開催＞、＜ホームページ・SNS による広報＞

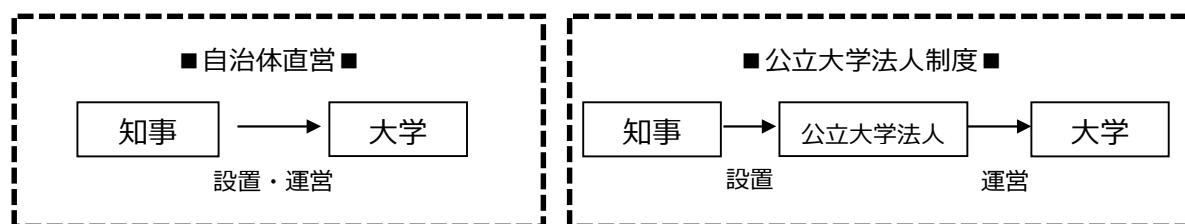
3 公立大学法人制度

(1) 公立大学法人制度のねらい

- 自主的・自律的な環境の下、魅力ある教育研究を積極的に展開（予算・人事等の規制緩和）
- 「民間的発想」によるマネジメント
- 能力、業績に応じた弾力的な人事システム（非公務員型）
- 情報公開、第三者評価による適切な資源配分、社会貢献の増大

(2) 地方自治体直営の大学と公立大学法人制度の比較

	地方自治体直営	公立大学法人制度
組 織	組織編成、人事、予算編成などの重要事項の決定は自治体を実施	法人が独自に組織編成、人事、予算の決定を行う。（資源の重点配分など、弾力的かつ効率的な組織運営が可能）
教職員の身分	公務員 （給与、人事、勤務時間などについて、地方公務員法の制度上の制約がある）	非公務員（県からの派遣職員を除く） （法人の判断で任期制、年俸制など弾力的な人事制度が可能） 法人独自の職員の採用が可能。
財 務	県の財務会計制度（費目間の流用、年度を越えた予算執行が制限される）	企業会計 （機動的・弾力的な財務運営が可能）
知事の関与	知事が直接指示、関与	知事の関与は中期目標の指示、中期計画の認定など限定的



<静岡県立大学・静岡文化芸術大学の概要>

(2019年5月1日現在)

	静岡県立大学・短期大学部	静岡文化芸術大学
開学年月日	1987年4月1日	2000年4月1日
所在地	(草薙キャンパス) 静岡市駿河区谷田52番1号 (小鹿キャンパス) 静岡市駿河区小鹿二丁目2番1号	浜松市中区中央二丁目1番1号
学 長	鬼頭 宏	横山 俊夫
学生数	3,430人（短大・学部・大学院）	1,468人（学部・大学院）
専任教員数	317人	90人
学部・学科の構成	(学 部) 薬、食品栄養、国際関係、経営情報、看護 (大学院) 薬食生命、国際関係、経営情報イノベーション、看護 (短 大) 歯科衛生、社会福祉、こども	(学 部) 文化政策、デザイン (大学院) 文化政策、デザイン
設置主体	静岡県公立大学法人	公立大学法人静岡文化芸術大学
設立年月日	2007年4月1日	2010年4月1日
資本金	223億6,100万9,064円 (土地:87億8,130万円 建物:135億7,970万9,064円)	168億1,019万7,000円 (土地:35億5,675万円 建物:132億5,344万7,000円)
理事長	尾池 和夫	有馬 朗人
副理事長	鬼頭 宏 (学長)	横山 俊夫 (学長)

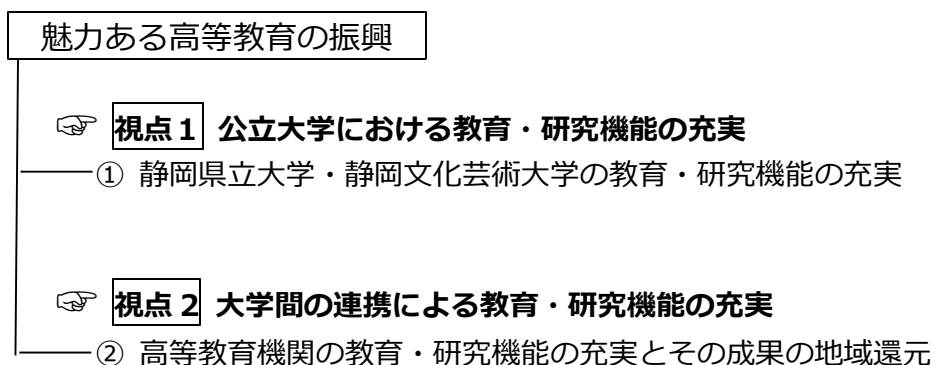
2 現状・課題と施策の方向

現状・課題	県の施策の方向
<p>大学進学者の減少が予測される中、県内の高等教育機関が、学生のさまざまな学修ニーズに応え、魅力的な高等教育機関として国内外の学生に選び続けられるためには、大学間や大学と地域、企業との連携の取組をより一層充実させる必要がある。（【図 1】【表 1】 P67）</p>	<p>・ 「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」等への支援を通じ、大学間・大学と地域、企業等との連携による教育・研究機能の一層の推進</p> <hr/> <p>➡②高等教育機関の教育・研究機能の充実とその成果の地域還元</p>
<p>急激な技術革新の進展等により地域・社会で求められる資質・能力が大きく変化する中、社会情勢の変化に応じた質の高い教育の提供による、地域社会の発展に貢献できる人材の育成が必要である。</p>	<p>・ 静岡県立大学・静岡文化芸術大学における観光教育課程の設置など、地域のニーズに応じた人材育成への取組を支援</p> <hr/> <p>➡①静岡県立大学・静岡文化芸術大学の教育・研究機能の充実</p> <p>・ 静岡の地域資源をテーマとした単位互換授業の開催や高校への出張講座の実施等に係る支援を通じ、地域社会に求められる人材育成を推進</p> <hr/> <p>➡②高等教育機関の教育・研究機能の充実とその成果の地域還元</p>
<p>関係機関と協働し大学等有する高度な研究成果や専門的な知識を地域へ還元し、地域活性化に取り組む必要がある。</p>	<p>・ 公立大学法人化した静岡県立大学・静岡文化芸術大学における中期目標や中期計画達成のための取組を支援</p> <hr/> <p>➡①静岡県立大学・静岡文化芸術大学の教育・研究機能の充実</p> <p>・ 大学連携による地域課題等解決のための共同研究への支援等を通じ、県内大学の研究成果等を地域へ還元</p> <hr/> <p>➡②高等教育機関の教育・研究機能の充実とその成果の地域還元</p>

3 施策に関する県と市町、民間等との役割分担

区分	役割・取組等
県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公立大学の設置者団体として、公立大学法人の中期目標を策定するとともに、法人の中期目標の達成に向けた取組を支援し、自主的・自律的かつ効率的な大学運営を促進 ・ 大学間・産業界・地域の連携組織である「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」への支援を通じ、県内大学等の教育・研究機能の充実を図るとともに、その成果の地域還元を促進
県内大学等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高等教育の提供者として、学修者の「学び」の意欲を満たすと同時に、地域社会を支える人材の育成 ・ 大学等の持つ高度な技術や専門的な知識を地域へ還元し、地域の活性化や地方創生に貢献
地域・産業界	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学と連携し、市町や企業等における教育の機会を提供 ・ 地域や本県産業界で求められる人材像及び高等教育段階で育成すべき能力等を明確にし、大学等と共有 ・ 大学と企業等との共同研究・受託研究や寄附等の支援により、大学運営の安定化に協力
国	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学・学部設置に係る許認可権限者として、これからの高等教育機関のあり方や育成すべき人物像、高等教育のグランドデザインを提示 ・ 国立・私立大学の運営経費への支援を通じ、安定的かつ効率的な大学運営を促進

4 県の施策推進の視点



5 主な取組

視点1 公立大学における教育・研究機能の充実

取組①	静岡県立大学・静岡文化芸術大学の教育・研究機能の充実	担当課名	文化・観光部 大学課											
目的 (何のために)	静岡県立大学と静岡文化芸術大学が、優秀で多様な人材から選ばれ、地域や国際社会の発展に寄与する知の拠点として、それぞれの強みを活かした質の高い教育・研究活動を展開し、豊かな人間性と社会性、未来を切り拓く力を備えたグローバル化社会で活躍できる人材を育成する。													
取組内容 (手段、手法など)	取組1：静岡県立大学・静岡文化芸術大学の中期目標の策定、両大学の中期計画の達成に向けた支援 (P74,75)													
	<p>(1) 中期目標の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県は、地方独立行政法人法に基づき、公立大学法人（大学）が6年間に達成すべき業務運営に関する目標（中期目標）を策定し、公立大学法人に対し指示 ・公立大学法人は、県の策定した中期目標に基づき、中期計画を策定 <p>県は、公立大学法人評価委員会を設置し、中期計画の進捗状況を把握</p> <p>(2) 公立大学法人評価委員会による業務実績評価の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立大学法人の業務運営に対し、専門性及び実践的な知見を踏まえ、客観的かつ中立公正に評価を行う機関として、「静岡県公立大学法人評価委員会」を設置 ・評価委員会は、2つの公立大学の業務の実績等に関する評価を行い、両公立大学の特色ある取組や様々な工夫を積極的に評価し、県に報告 ・県は、評価結果の公表や業務実績の運営費交付金への反映を通じ、中期目標・中期計画の達成に向けた取組を支援し、公立大学法人の適正で効率的な業務運営を促進 <p>(3) 県立2大学への財政支援</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>運営費交付金</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・大学運営にかかる基本的な経費（人件費、教育研究費、管理運営費等）を運営費交付金として交付 ・大学の定める中期計画における数値目標などを成果指標として設定し、業務実績に応じ交付金を算定 </td> </tr> <tr> <td>施設整備等補助金</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・教育環境の充実のため、施設整備計画に基づいた大規模改修や研究用の高額備品の更新などに対し補助金を交付 </td> </tr> </tbody> </table>			種類	内容	運営費交付金	<ul style="list-style-type: none"> ・大学運営にかかる基本的な経費（人件費、教育研究費、管理運営費等）を運営費交付金として交付 ・大学の定める中期計画における数値目標などを成果指標として設定し、業務実績に応じ交付金を算定 	施設整備等補助金	<ul style="list-style-type: none"> ・教育環境の充実のため、施設整備計画に基づいた大規模改修や研究用の高額備品の更新などに対し補助金を交付 					
	種類	内容												
運営費交付金	<ul style="list-style-type: none"> ・大学運営にかかる基本的な経費（人件費、教育研究費、管理運営費等）を運営費交付金として交付 ・大学の定める中期計画における数値目標などを成果指標として設定し、業務実績に応じ交付金を算定 													
施設整備等補助金	<ul style="list-style-type: none"> ・教育環境の充実のため、施設整備計画に基づいた大規模改修や研究用の高額備品の更新などに対し補助金を交付 													
取組2：新たな教育課程の設置の支援 (P76)														
<p>県立大学としての時代の変化や地域社会のニーズに対応した人材育成を支援</p> <p><県立2大学の学科の新設、再編等></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2011年4月</td> <td>(県立大学) 経営情報イノベーション研究科に「博士後期課程」設置</td> </tr> <tr> <td>2014年4月</td> <td>(県立大学) 食品栄養科学部に「環境生命科学科」を設置 短期大学部看護学科（3年制）の看護学部への統合</td> </tr> <tr> <td>2016年4月</td> <td>(県立大学短期大学部)「こども学科」を設置</td> </tr> <tr> <td>2019年4月</td> <td>(県立大学) 経営情報学部に「観光マネジメント」メジャーを設置 (文化芸術大学) 文化政策学部に「文明観光学コース」を設置 デザイン学部に「匠領域」を設置</td> </tr> <tr> <td>2020年4月</td> <td>(県立大学) 看護学研究科に「博士後期課程」を設置（予定）</td> </tr> </tbody> </table>			時期	内容	2011年4月	(県立大学) 経営情報イノベーション研究科に「博士後期課程」設置	2014年4月	(県立大学) 食品栄養科学部に「環境生命科学科」を設置 短期大学部看護学科（3年制）の看護学部への統合	2016年4月	(県立大学短期大学部)「こども学科」を設置	2019年4月	(県立大学) 経営情報学部に「観光マネジメント」メジャーを設置 (文化芸術大学) 文化政策学部に「文明観光学コース」を設置 デザイン学部に「匠領域」を設置	2020年4月	(県立大学) 看護学研究科に「博士後期課程」を設置（予定）
時期	内容													
2011年4月	(県立大学) 経営情報イノベーション研究科に「博士後期課程」設置													
2014年4月	(県立大学) 食品栄養科学部に「環境生命科学科」を設置 短期大学部看護学科（3年制）の看護学部への統合													
2016年4月	(県立大学短期大学部)「こども学科」を設置													
2019年4月	(県立大学) 経営情報学部に「観光マネジメント」メジャーを設置 (文化芸術大学) 文化政策学部に「文明観光学コース」を設置 デザイン学部に「匠領域」を設置													
2020年4月	(県立大学) 看護学研究科に「博士後期課程」を設置（予定）													

視点 2 大学間の連携による教育・研究機能の充実

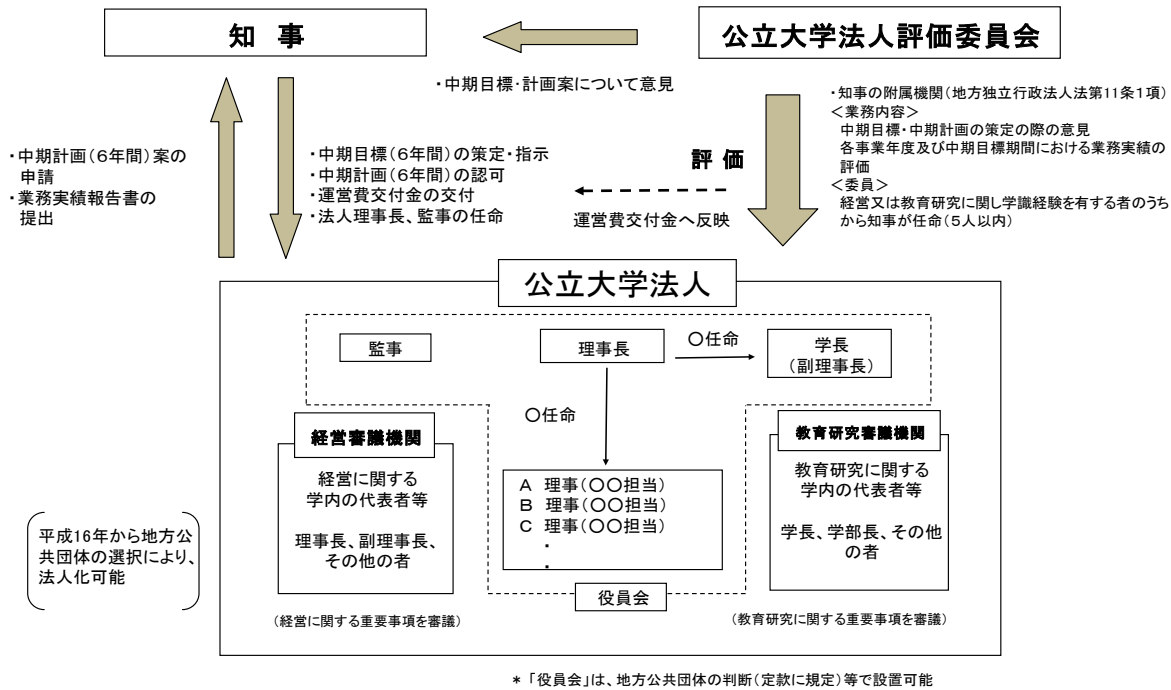
取組②	高等教育機関の教育・研究機能の充実とその成果の地域還元	担当課名	文化・観光部 大学課								
目的 (何のために)	大学間及び大学・地域間の連携を強化して、県内高等機関の教育・研究機能の充実を図り、地域の発展に資する人材を育成する。										
取組内容（手段、手法など）	取組 1：ふじのくに地域・大学コンソーシアムへの支援 (P77,81) <ul style="list-style-type: none"> ・ふじのくに地域・大学コンソーシアムが実施する、大学と地域等との連携による教育・研究力の向上や地域の発展に資する取組を支援 ・県内経済団体とふじのくに地域・大学コンソーシアムとの意見交換や連携した取組を支援 ・国の補助事業である「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」を通じて、地域が求める人材を養成する教育プログラムの開発に取り組んでいる県内大学の取組等を支援 										
	取組 2：静岡を学びのフィールドとした教育機会の創出支援 (P77) <ul style="list-style-type: none"> ・県内大学で展開する本県の魅力発信に繋がる地域資源に係る研究を「ふじのくに学」として体系化し、大学連携により多様な「ふじのくに学」を学ぶ機会の創出を支援 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">事業名</th> <th style="text-align: center;">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">単位互換授業 (大学生対象)</td> <td>本県の魅力の理解促進と愛着を醸成するため、静岡を代表するフィールド（富士山等）を活用した実践的な学びを習得する単位互換を前提とする共同授業を実施</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">大学連携講座 (一般対象)</td> <td>県内高等教育機関の研究者や県内外の学識者が講師となり、地域資源等をテーマとした公開講座を開催</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">高校等出張講座 (高校生対象)</td> <td>大学の教員や大学生が高校等へ出張し、「ふじのくに学」に関する講義やワークショップを実施</td> </tr> </tbody> </table>			事業名	内容	単位互換授業 (大学生対象)	本県の魅力の理解促進と愛着を醸成するため、静岡を代表するフィールド（富士山等）を活用した実践的な学びを習得する単位互換を前提とする共同授業を実施	大学連携講座 (一般対象)	県内高等教育機関の研究者や県内外の学識者が講師となり、地域資源等をテーマとした公開講座を開催	高校等出張講座 (高校生対象)	大学の教員や大学生が高校等へ出張し、「ふじのくに学」に関する講義やワークショップを実施
	事業名	内容									
	単位互換授業 (大学生対象)	本県の魅力の理解促進と愛着を醸成するため、静岡を代表するフィールド（富士山等）を活用した実践的な学びを習得する単位互換を前提とする共同授業を実施									
大学連携講座 (一般対象)	県内高等教育機関の研究者や県内外の学識者が講師となり、地域資源等をテーマとした公開講座を開催										
高校等出張講座 (高校生対象)	大学の教員や大学生が高校等へ出張し、「ふじのくに学」に関する講義やワークショップを実施										
取組 3：地域や社会の要請に応える研究の推進と研究成果の発信 (P78～80) <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域のニーズに応える研究の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・本県が抱える課題等に対する理解を深め、大学が所在しない地域住民との交流や研究活動を通じた学生のキャリア観の形成を促進するため、県内市町や企業が提案した地域課題解決に取り組むゼミ学生の研究活動を支援（学生による地域活動支援）。 ・県内大学等における地域貢献に資する研究を促進するため、複数の大学が共同して推進する「ふじのくに学」に関する研究や、地域における課題解決のための研究に対して助成（共同研究助成） ○ 大学連携による“静岡ならではの”研究成果の還元 <ul style="list-style-type: none"> ・「ふじのくに地域・大学フォーラム」を開催し、ゼミ学生の地域課題解決の研究成果発表や共同研究助成事業の中間発表、高校生によるプレゼン発表等により、研究成果を広く発信 ・県民の健康づくりの推進と、医療・研究機関との連携による若手研究者等の育成及び学術の振興を図るために、「静岡健康・長寿学術フォーラム」を開催し、健康長寿に関する研究成果等を発信 											

6 主要事業

事業名	重点項目	2019 予算額(千円)
静岡県立大学支援事業費	公立大学法人の業務運営に係る経費に対して助成し、教育研究の活性化と効率的な大学運営による魅力ある大学づくりを促進 ・運営費交付金 ・施設整備等補助金	4,740,000
静岡文化芸術大学支援事業費		1,697,000
ふじのくに学術振興事業費	公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアムが実施する、大学間連携事業への支援	36,970
その他取組を含めた合計		6,482,955

視点1 公立大学における教育・研究機能の充実 関係資料

<公立大学法人における目標・計画・評価の流れ>



<中期目標・中期計画・年度計画>

<p>中期目標 (県が策定) (期間 6 年間)</p>	<p>法人が6年間に達成すべき目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設立団体の長が、法人と評価委員会の意見を踏まえて策定。 ・ 議会の議決を経て決定し公表 <p>例：社会の進展を踏まえ大学の機能強化と魅力の向上に取り組む</p>
<p>中期計画 (法人が策定) (期間 6 年間)</p>	<p>法人が中期目標を達成するための具体的な計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 法人が作成し、設立団体の長が、評価委員会の意見を踏まえて認可。認可後、法人は中期計画を公表 <p>例：教育研究力の向上のため、学部・研究科の見直しを行う</p>
<p>年度計画 (法人が策定) (期間 1 年間)</p>	<p>法人が年度毎に実施する事業の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 法人は設立団体の長に届出、公表 ・ 法人は各事業年度の業務実績について、評価委員会の評価を受ける。 ・ 設立団体の長は、評価結果を議会に報告 <p>例：看護学博士後期課程の設置に向けた手続きを進める</p>

<静岡県公立大学法人評価委員会委員>

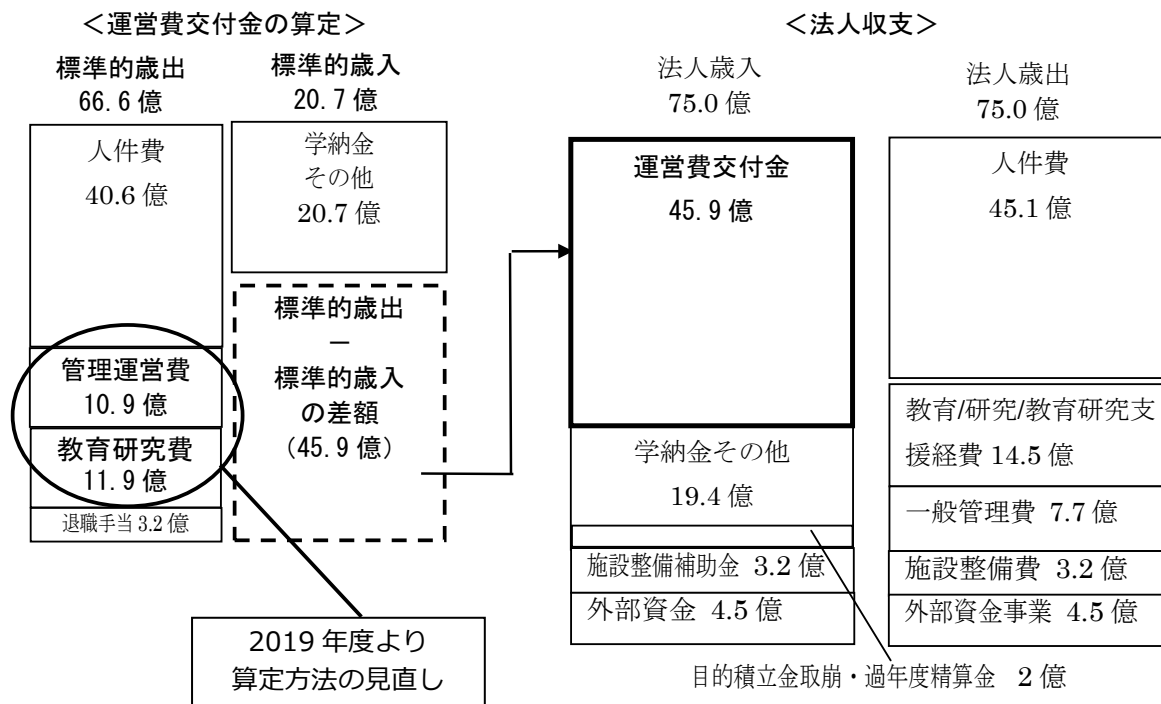
(任期：2019年4月1日～2021年3月31日)

	氏名	役職名
委員長	櫻井 透	株式会社静岡銀行 元会長
委員長代理	伊東 幸宏	教育委員、 (公財)浜松地域イノベーション推進機構フォトンバレーセンター長
委員	牛尾 奈緒美	明治大学副学長(情報コミュニケーション学部専任教授)
委員	酒井 範子	静岡産業大学経営学部特任講師、元県立浜北西高校副校長
委員	白鳥 三和子	公認会計士

＜運営費交付金＞

1 運営費交付金と法人収支 ※静岡県立大学のケース（2018年予算ベース）

○ 標準的歳出と標準的歳入の差額等をもって運営費交付金を算定し、法人に支給



2 運営費交付金の算定方法の見直し

交付金費目	2018年度まで	2019年度以降
管理運営費	・ 対前年度 1% を減額 (効率化係数)	・ 効率化係数を廃止 ・ 大学の成果指標の達成度、目標達成に向けた取組に応じ増減
教育研究費		
人件費	前年同額を据え置き	同左

大学のパフォーマンスを高め、課題解決に向けた意欲的な取組を支援

3 運営費交付金及び施設整備費補助金の推移

(単位：千円)

年度	2015	2016	2017	2018	2019
静岡県立大学	4,864,000	4,992,517	4,778,000	4,914,000	4,745,000
運営費交付金	4,694,000	4,635,653	4,478,000	4,591,000	4,462,000
施設整備等補助金	170,000	356,864	300,000	323,000	283,000
静岡文化芸術大学	1,466,000	1,492,848	1,500,591	1,667,000	1,697,000
運営費交付金	1,466,000	1,476,000	1,459,281	1,494,743	1,530,634
施設整備等補助金	0	16,848	41,310	172,257	166,366

※2015～18年度は決算額、2019年度は当初予算額

<2019年4月に開設した新教育課程の内容>

大学名	静岡県立大学	静岡文化芸術大学	
コース名	経営情報学部 「観光マネジメント」	文化政策学部 「文明観光学コース」	デザイン学部 「匠領域」
入学定員	25名増	10名増	10名増
育成する人材のイメージ	観光のセンスに加え、経営、総合政策、データサイエンスの能力を兼ね備え、地域の観光産業の活性化や地域創生を担う人材を育成	新しい観光資源の開拓や文化芸術を活用した観光事業の開発に携わる人材を育成	伝統建築に関する施工方法、伝統工芸に関する知識と技法を理解し、新しい空間や工芸品を提案できる人材を育成

<静岡県立大学・静岡文化芸術大学の地域貢献（産学官連携）の取組例>

◇静岡県立大学 「GABA入り食品」

γ-アミノ酪酸（略称「GABA」）のストレスを和らげる効果について研究を進め、この研究成果を活用した商品が相次いで発売され、「GABA」を豊富に含んだチョコレート、コーヒー、ヨーグルトなど、「ストレス緩和食品」の市場が創出されている。

- 食品栄養科学部 横越 英彦教授
(現在は名誉教授)
- 共同研究者
(株)江崎グリコ、(株)ファーマフーズ



◇静岡文化芸術大学 「浜松・久留女木の棚田再生プロジェクト」

浜松市北区引佐町久留米木（くるめき）には、平安時代が起源といわれる約800枚の田んぼがあり、その美しい景観は、「日本の棚田100選」にも選ばれているが、農家の高齢化や担い手不足のため、耕作放棄地が増え、農村景観が崩れはじめていた。

2016年5月より、文化政策学部 船戸修一准教授と学生達が、「引佐耕作隊」プロジェクトを始め、耕作放棄地だった棚田を地主から借り受け、棚田の再生、収穫した米のパッケージデザイン&商品化、販売を目的に活動している。



<静岡県立大学・静岡文化芸術大学における小・中学生を対象とした取組>

両県立大学では、小・中学生を対象として、大学を知る機会を提供している。

<静岡県立大学>

内容	開催時期	対象
夏休み県大ツアー	8月	小学生以上
県短わくわくツアー	8月	小学生
親子環境教室	7月	小学生（3年生以上）
夏の体験実験 in 県大(理系女子夢みつけ☆応援プロジェクト)	7月	中1～高1の女子生徒
夏休みミツバチ観察教室	7月	小学生

<静岡文化芸術大学>

内容	開催時期	対象
キャンパスツアー	8月	一般（小学生以下可）

視点2 大学間の連携による教育・研究機能の充実 関係資料

<ふじのくに地域・大学コンソーシアムの取組>

1 単位互換授業

静岡の資源をテーマに、複数大学の学生が合同で受講する単位互換を前提とする授業。2014年度からスタートし、座学、フィールドワーク、グループワーク等を取り入れた多彩なカリキュラムで実施。



【2019年度の開講予定「ふじのくに学」】7講座実施予定

テーマ	内容
富士山	地球科学、芸術文化など多様な視点から富士山の自然と人との関わりについて学ぶ
お茶	農業、作物学、生産・加工・流通まで多様な視点からお茶を総合的に学ぶ
観光学	伊豆半島を舞台に本県の多彩な観光資源を生かした「世界クラスの観光地づくり」を学ぶ
南アルプスの自然	静岡市井川地区で南アルプスを題材に自然と人間社会の共生について理解を深める
防災	自然災害のメカニズムを理解し、防災対策の必要性とその効果について学ぶ
演劇論	静岡県舞台芸術センターを題材に、講義や実技・演劇鑑賞を通して演劇への理解を深める
農林業	森林観察や林業体験を通して静岡県の農業と林業の夏・秋冬の作業の特徴について学ぶ

2 大学連携講座

複数の大学が共同で、本県の魅力や地域資源等をテーマとする公開講座を7回開催（2018年度）

実施大学	連携大学	講座テーマ	場所
静岡理工科大学	静岡文化芸術大学	建築環境デザインを科学する ～静岡建築茶会 2018	静岡文化芸術大学
			静岡理工科大学
			静岡市文化・芸術クリエイティブ産業振興センター
静岡県立大学	東海大学 静岡大学	静岡で知っておきたい地震と 火山と防災	裾野市民文化センター
			静岡県男女共同参画センターあざれあ
			静岡県下田総合庁舎
			裾野市民文化センター

3 高校等出張講座

高校生に、大学の学問や県内大学の魅力を伝え、進学意欲や目的意識を高めるため、大学教員による高校への出張講座や大学生によるワークショップを19回実施（2018年度）

高校名	開催日	講座名称	提供大学
県立天竜高校春野校舎	6月6日(水)	静岡で学ぶ、静岡で働く	静岡産業大学
県立川根高校	6月13日(水)	静岡地域における伝統文化と文化継承	静岡文化芸術大学
県立小山高校	6月20日(水)	静岡で学ぶ、静岡で働く 地方活性化～人口減少をいかに食い止めるか	静岡産業大学
県立浜松湖北高校	6月26日(火)	なぜ静岡市は待機児童0人なのか～静岡県の子育て	聖隷クリストファー大学
県立川根高校	6月27日(水)	地域共生	静岡大学
県立焼津中央高校	7月6日(金)	宇宙エレベーター：その原理と実現に向けての静岡大学を中心とした取組	静岡大学
県立吉原高校	7月10日(火)	静岡から世界へ・宇宙へ・未来へ	静岡大学
県立科学技術高校	7月13日(金)	静岡が抱える地域問題に自ら問題解決する プロセスを組み立てるには	静岡大学
県立吉原高校	7月17日(火)	国際的な視野を持って文化の新たな地平を切り拓く人材とは	静岡文化芸術大学
県立清水西高校	8月30日(木)	地震防災	静岡理工科大学
クレーク記念国際高校静岡キャンパス	9月7日(金)	富士山の地下に眠る膨大な水資源	放送大学静岡学習センター
浜松修学舎高校	9月18日(火)	掛川層群から産出する貝化石と過去の環境変動	静岡大学
城南静岡高校	9月20日(木)	静岡学	静岡産業大学
県立静岡西高校	10月16日(火)	静岡県で働くことの魅力	静岡県立大学
県立伊東高校	10月23日(火)	地域への思いをカタチにする	静岡大学
クレーク記念国際高校浜松キャンパス	10月24日(水)	伊豆のジオパーク	静岡県立大学
磐田東高校	11月28日(水)	防災への備えと起きたときの行動と対処	浜松医科大学
県立浜松大平台高校	12月6日(木)	佐鳴湖の海水・淡水プランクトン	静岡県立大学
県立富岳館高校	12月18日(火)	世界遺産（富士山とその周辺）と外国人への対応	静岡英和学院大学

4 学生による地域活動支援

自治体や企業から提示された地域課題の解決のための研究を行う大学のゼミや学生団体を助成



学生による地域の伝承の聞き取り調査の状況

浜松市×静岡文化芸術大学

【2018年度】

課題提案者	課題名	研究大学
静岡県	県内における女性の子育て世代の離職要因分析とその課題解決のための提案	静岡県立大学
静岡市	JR 草薙駅南口ランドデザインの実現に向けたバス交通の提案について	静岡県立大学
浜松市	浜松市天竜区佐久間町における地域づくりの方策の研究	静岡文化芸術大学
浜松市	春野町における民間口承文化財（昔話）の伝承による地域文化の保存継承	静岡文化芸術大学
沼津市	若年層におけるアジのひもの消費拡大に向けたメニューの提案と活用法	静岡英和学院大学
沼津市	大学生と創る若者に子宮頸がん検診を受けてもらうための効果的な方策についての研究	聖隷クリストファー大学
三島市	学校・家庭・地域連携協力推進事業への大学生参画の促進について	日本大学国際関係学部
三島市	学生の地域内定着促進に向けた三島市版若者地域就職活動モデルの確立	日本大学短期大学部
富士市	富士地域における紙加工品製造業の新たな事業創造に向けた調査研究	常葉大学
富士市	個別処理区域における水路、中小河川の現状把握と市民満足度指標の提言	常葉大学
掛川市	掛川手織葛布の継承に向けた若者からの提言	静岡文化芸術大学
藤枝市	蓮花寺池公園からの旧東海道商店街への誘客促進	静岡文化芸術大学
藤枝市	高齢者の運転免許証自主返納の推進と返納後の交通手段について	聖隷クリストファー大学
御殿場市	空き店舗の実態調査及び空き店舗活用事例による地域振興策研究	静岡英和学院大学
袋井市	ラグビーワールドカップ開催に向けた機運醸成とラグビーを活かしたスポーツ振興	静岡理工科大学
下田市	散歩したくなる商店街のデザインの提案	静岡文化芸術大学
裾野市	VR を活かした深良用水隧道調査と文化・観光振興	沼津工業高等専門学校
伊豆市	伊豆市の観光市場調査（マーケティング調査）	静岡県立大学
菊川市	医療費（調剤費）の抑制のための提言	静岡県立大学
伊豆の国市	伊豆長岡温泉の再生に向けた地域資源調査	日本大学国際関係学部
河津町	伊豆縦貫自動車道新 IC 周辺（予定地）の地域振興のための提案	日本大学国際関係学部
小山町	金太郎を活かした街の宣伝方法について	日本大学短期大学部
川根本町	インスタグラムを活用した地域創造	静岡大学
川根本町	地域食材による食、土産品で町の魅力を創造する	静岡大学
クレディセゾン	浜松市・磐田市における消費動向の調査とキャッシュレス社会に向けた若年層への提言	静岡大学
(自由課題)	天竜区春野町の在来種を活用した伝統野菜アグリツーリズムの研究	浜松学院大学

5 共同研究助成

大学が連携して行う「ふじのくに学」に関する研究や、地域課題の解決のための研究に対して助成（2018年度）

テーマ	内容	研究大学
静岡河津桜由来清酒酵母のゲノム解析にもとづく分子育種	静岡県工業技術研究所が開発した「河津桜由来清酒酵母」をもとに、さらなる話題性のある商品を開発するための研究	静岡県立大学 静岡大学
中国・タイにおける日本産抹茶の販売促進に関する調査研究	日本産抹茶の輸入量が拡大しているタイにおける、県産抹茶のブランドイメージ向上のための調査研究	静岡産業大学 静岡英和学院大学
情報技術活用による日中茶博物館の交流発展に関する研究	本県の「ふじのくに茶の都ミュージアム」と中国浙江省の「中国茶葉博物館」の交流発展のため、両館の所蔵品のデジタル化と3Dプリンタによる再現	静岡産業大学 静岡県立大学
養護教諭が性的マイノリティ児童生徒への支援において果たす役割についての調査研究 - 静岡モデルの構築を目指して -	性的マイノリティ児童生徒への教育相談体制の整備のため、養護教員へのインタビュー調査と教職員研修プログラムの試案作成及び実施	静岡大学 静岡英和学院大学
静岡産機能性食品で更年期うつや物忘れを予防する	県内で育成されている柑橘類（太田ポンカン）に含まれる有効成分が、更年期障害に及ぼす改善効果の検証と機能性表示食品の認可取得に向けた研究	静岡県立大学
緑茶カテキン重合体テアフラビンの口腔内フローラに及ぼす効果の検討	緑茶カテキンが口腔内の環境改善に有効である研究結果が報告されているが、緑茶カテキン的一种であるテアフラビンの有効性を明らかにし、食品産業への応用の可能性を研究	静岡県立大学
静岡における地域共生社会モデル研究 ～空き屋の利活用に着目して～	今日の社会問題ともなっている「空き屋」に着目し、その社会資源としての利活用について調査研究	静岡福祉大学

6 ふじのくに地域・大学フォーラム

ゼミ学生の地域活動や共同研究の成果などを発表するフォーラムを開催（開催時期：2月頃）

年度	主な内容	開催場所
2014	・ゼミ学生地域貢献推進事業成果発表会	もくせい会館
2015	・ゼミ学生地域貢献推進事業成果発表会 ・学術研究助成採択事業の成果発表 ・ゼミ課題に対応したワークショップの開催 ・学生による静岡県カレッジサミット	静岡県立大学
2016	・ゼミ学生地域貢献推進事業成果発表会 ・共同研究助成事業の中間発表 ・短期集中互換授業の発表 ・留学生支援サークル交流会等の発表	静岡文化芸術大学
2017	・ゼミ学生地域貢献推進事業成果発表会 ・共同研究助成事業の中間発表 ・高大連携をテーマとする高校生によるプレゼン発表、ポスター発表 ・若手地域イノベーター等によるパネルディスカッション	日本大学国際関係学部 三島駅北口校舎
2018	・ゼミ学生地域貢献推進事業成果発表会 ・共同研究助成事業の中間発表 ・静岡県ハイスクールボランティアアワードの受賞高校生によるプレゼン発表、ポスター発表 ・海外留学コーナー	常葉大学 静岡草薙キャンパス



ふじのくに地域・大学フォーラムで研究成果を報告するゼミ学生

<静岡健康・長寿学術フォーラム>

県民の健康づくりの推進と、県内の医療・研究機関との連携による若手研究者等の育成及び学術の振興を図るために、健康長寿に関する研究成果等の情報発信を行う。

【今年度計画】

実行委員会構成	静岡大学、浜松医科大学、静岡県立大学（事務局）、県
開催日	2019年11月9日（土）～10日（日）
会場	グランシップ
テーマ	健康・長寿と茶
概要	学術セッション、県民フォーラム、高校生・大学生の活動報告 等



昨年度のフォーラムの学術セッションの様子

<県内経済団体との連携>

県内経済4団体（静岡県経営者協会、静岡県商工会議所連合会、静岡県商工会連合会、静岡県中小企業団体中央会）とふじのくに地域・大学コンソーシアムは、2018年8月31日、学術の振興と産学官連携による地域の発展に向けた包括連携協定を締結した。2019年6月19日には、経済団体との意見交換会を開催し、これからの時代に求められる人材像等について意見交換した。



昨年度の協定締結式の様子



今年度の意見交換会の様子

<地（知）の拠点大学による地方創生推進事業の概要>

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 ～地(知)の拠点COCプラス～

【背景・課題】
『人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる』という負のスパイラルに陥ることが危惧されている。
地方/東京の経済格差拡大が、東京への一極集中と若者の地方からの流出を招いている。

【事業概要】
地方の大学 … 地域の自治体や中小企業等と協働し、地域の雇用創出や学卒者の地元定着率の向上に関する計画を策定
東京等の大学 … 地方の大学や地方公共団体・中小企業等と協働し、地方の魅力向上に資する計画を策定

- 大学が、地域の各種機関と協働し、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに地域が求める人材を育成するための教育改革を実行
- COC+推進コーディネーターを配置し、事業協働地域の連携強化や取組の進捗を管理
⇒ 事業協働機関が設定した目標達成のため、大学力（教育・研究・社会貢献）を結集

【事業体制】

静大発“ふじのくに”創生プラン

ミッション：新産業創出と産業の多極化に対応する提案+行動型人材の育成

平成27年度
平成28年度
平成29年度
平成30年度
平成31年度

事業開始

地域行動型人材育成「地域創造学環」

産業行動型人材育成「産業イノベーションコース」

地域の企業を知る「インターンシップ」

県内就職率の向上

中京圏参加校
愛知学院大学

静岡県参加校
静岡県立大学
東海大学海洋学部

浜松医科大学
静岡文化芸術大学
静岡大学
静岡大学
浜松キャンパス

首都圏参加校
電気通信大学
東海大学

沼津工業高等専門学校

県、35市町
経済4団体、
4銀行、12信金、
スズキ、ヤマハ他12法人

美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生総合戦略と連動

県内大学卒業就職者の県内企業等就職割合の向上を目指す

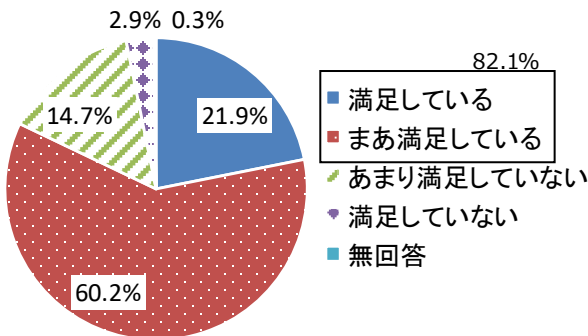
国立大学法人 静岡大学 National University Corporation Shizuoka University

<2017年度静岡県の大学生の意識調査結果>

本県の「高等教育機能の充実と学術の振興」の到達度を把握するため、県内高等教育機関の学生を対象にアンケート調査を実施した。

実施時期	2017年10月～12月
調査対象	大学、短期大学、高等専門学校（4～5年）に在籍する全学生の3.4%（1,230人）
有効回答数	1,134人（回答率92.2%）

大学の教育内容への満足度



満足していない主な理由

